九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第3巻 : 通史編 III

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1801800

出版情報：九州大学百年史. 3, 2017-03-31. Kyushu University
バージョン：
権利関係：

第 2 章　創立百周年記念事業

第 1 節　創立百周年記念事業

（1）記念事業計画の策定

創立百周年記念事業

九州大学では 1911（明治 44）年の創立以来、25 年ごとに周年記念事業を実施してきた。それぞれ記念式典や記念講演会等を行ったほか、1961（昭和 36）年の創立 50 周年に際しては創立五十周年記念講堂・同窓会館の建設や『九州大学五十年史』の編纂などを、1976 年の創立 75 周年に際しては『九州大学七十五年史』の編纂などを行った。

2011（平成 23）年に迎える創立 100 周年については、2005 年 3 月 15 日の部局長会議で、記念事業を現在検討しており、事業内容がある程度固まった段階で提案したい旨が報告された。そしてこの件は全学的に取り組むべき事業であり、募金活動等あらゆる面で協力されたいとの依頼が各部局長に対して行われた。

ついで同年 10 月 21 日の部局長会議で、以下のように 100 周年記念事業の概要等が説明され、了承された。

「九大・新世紀　2011」

九大創立 100 周年記念事業（案）

九州大学は明治 44 年（1911）、20 世紀の日本を担う拠点大学として創立され、平成 23 年（2011）に 100 周年を迎えます。

20 世紀の 100 年は箱崎の地を中心に、近代日本を支え・発展させる人材、10 万人の卒業生を送り出してきました。

平成 16 年（2004）の国立大学法人化をへて、平成 17 年（2005）、創立の地箱崎から新たな伊都キャンパスへ移転を開始し、新天地において 21 世紀の九州大学として、さらなる充実と飛躍をめざします。

さらに伊都キャンパスは、21 世紀の九州大学の拠点であると同時に、地域社会や産業・経済界と連携した新しい学術研究都市づくりの拠点としての役割を担います。

九州大学では、21 世紀の新たな大学づくりのシンボルとして、創立 100 周年記念建物の設置を中心とする 100 周年記念事業を別紙のとおり企画いたしました。

来し方 100 年の歴史を踏まえ、21 世紀の新空間伊都キャンパスに踏み出す、時・空のけじめにあたり、卒業生ならびに産業界、経済界、教育会にわたる関係各位の絶大な御支援をお願い申し上げます。

（別紙）

九州大学創立 100 周年記念事業概要

○100 周年記念建物の設置

21 世紀の九州大学のシンボルとして、100 周年にふさわしい記念性を備えた「九州大学創立 100 周年記念建物」を、伊都キャンパスに設置する。

○九州大学 100 年史の刊行

九州大学の 100 年にわたる歴史を記述した「九州大学 100 年史」を刊行する。

○記念行事の開催

記念式典、講演会、シンポジウム、展示会など各種記念イベントを開催する。

○各種事業

これまで築いた伝統を礎に、福岡都心部において教育研究機能を発揮するための新たな拠点の形成など、各種事業を行う。

創立百周年記念事業計画の策定

こうして創立百周年記念事業（以下原則として「記念事業」と略）に関する方向性が示され、2005（平成 17）年 12 月 16 日に九州大学創立百周年記念事業委員会（以下「記念事業委員会」）が設置された。記念事業委員会は、記念事業の実施方針・実施計画の審議、記念事業に係る募金、創立百周年記念事業後援会との連携等を行う、記念事業実施の統括機関であった。委員長は総長で、委員は理事、総長特別補佐、各部局等の長、事務局長から構成された。また、下部機関として、委員会の行う事項に係る企画・立案と実施・調整等を行わせるため専門委員会も設置された（資料編Ⅲ－947、pp.1489-1490）。

記念事業委員会と専門委員会は 1 年近い検討を経て、2006 年 10 月に以下のように百周年記念事業計画を策定した（資料編Ⅲ－950、p.1499）。

スローガン「知の新世紀を拓く」

コンセプト

100 年の伝統を基盤とし、知の新世紀を拓く

1. 新しい知の創造拠点の構築
2. 知のアジアグローバリズムの先導
3. 人類の未来を切り拓くリーダーの育成

事業概要

1. 教育研究環境の整備充実を図るための九州大学基金（仮称）の創設
2. 生涯学習時代に対応する社会人等の受入れ推進事業
3. 産学連携・地域連携等推進事業
4. 国際交流推進事業
5. 『九州大学百年史』の編纂と記念式典・記念シンポジウム等の開催

実施体制

策定された事業計画に基づき、これ以降実施の準備が開始されるが、その実施体制は以下のようなものであった。

まず学内の実施体制としては、前項に示したように記念事業委員会が全体の統括機関として設置され、その下に専門委員会が置かれた。さらに 2008（平成 20）年 10 月、専門委員会の下に実行委員会・募金委員会・経理委員会・史料編纂委員会が置かれた。実行委員会の下には事業、式典、社会連携・広報（2010 年 10 月からデザイン・広報・社会連携）の 3 部会が設けられた。募金委員会は、2006 年 9 月にすでに募金ワーキング・グループとして設置されていたもので、まず募金ワーキング・グループからひきつづき学内募金・個人募金・法人募金の 3 部会が設けられた。学内募金・個人募金の両部会は 2009 年 1 月個人募金部会に統合された。経理委員会には経理・基金部会が置かれた。史料編纂委員会は 2006 年 10 月に設置されていた百年史編集ワーキング・グループを改組したもので、その下に百年史編集委員会等が置かれた（資料編Ⅲ－950、p.1502。『九州大学創立百周年記念事業報告書』、九州大学総務部百周年記念事業推進課、2011 年、pp.52-54）。

つぎに学外の支援体制としては 2007 年 2 月 28 日に九州大学百周年記念事業推進会（以下「推進会」）が発足し、鎌田迪貞（みちさだ）九州経済連合会会長・九州電力(株)会長（2009 年 5 月 26 日より松尾新吾九州経済連合会会長・九州電力(株)会長に交代）を会長に、梶山千里九州大学総長（2008 年 10 月 1 日より有川節夫九州大学総長）を会長代行に選出した。推進会の主な役割は寄付の募集であった（推進会については第 2 節を参照）。

これら学内外の実施体制を支援する事務組織として、2006 年 4 月 1 日に百周年記念事業推進室が設置された。同室は 2007 年 4 月 1 日より社会連携課内に置かれ、2009 年 3 月 31 日に廃止されて 4 月 1 日より社会連携課内に百周年記念事業係が設置された。同時に大学組織として百周年記念事業担当理事を室長とする百周年記念事業推進室が設置され（資料編Ⅲ－949、

pp.1492-1493）、さらに同年 8 月 1 日には社会連携課から百周年記念事業を担当する部署として百周年記念事業推進課が独立して、事務支援体制はより強化された

図 15-7 稲盛財団記念館

（2）記念事業の実施

以上のような経緯と体制により記念事業の準備は進められ、さまざまな事業が実施された。募金活動と九州大学基金の創設については第 2 節、記念行事については第 3 節、『九州大学百年史』の編纂については本節（3）で見ることとし、ここではそれ以外の記念事業の内容を述べる。

稲盛財団記念館

記念事業による寄贈建物の 1 つが、(公財)稲盛財団（稲盛和夫理事長）より教育研究や国際交流・地域交流を推進する中核拠点として寄贈された稲盛財団記念館である。同館は伊都キャンパス・ウェストゾーンに建設され、2009（平成 21）年 10 月 2 日に竣工披露会が開催された。

1 階には、人類の平和と繁栄に貢献することを目的とする稲盛財団の活動を、伊都キャンパスを訪れる研究者や文化人、将来を担う子供達を含む一般市民にも広く紹介するための展示施設として「京都賞ライブラリー」と、海外の大学や研究機関などとの学術・文化交流の場として活用する「稲盛ホール」がある。2 階から 4 階には、将来の安心・安全な社会に貢献するため、人と技術の調和、心と技術の調和に貢献する研究活動を行うとともに、若手

研究者の交流と育成を推進することを目的とした「稲盛フロンティア研究センター」が設置されている（同センターの詳細は第 7 巻部局史編Ⅳ第 58 編を参照）。

椎木講堂

第 2 節で見るように、記念事業の募金は難航を極め、予定していた大学講堂の記念事業による建設は困難な状況となっていた。そうしたおり、推進会から、三洋信販(株)創業者で、しいき教育文化振興基金会長の椎木正和を紹介され、九州大学から教育・研究・文化施設の提案・支援を願ったところ、講堂建設費の寄付を受けられることとなった(『九州大学創立百周年記念事業報告書（追録）』、九州大学総務部基金事業課、2013 年、p.13)。講堂は寄贈者の名を冠して「椎木講堂」と命名され、伊都キャンパス・センターゾーンに建設が進められて、2014（平成 26）年 3 月 4 日に落成式が行われた。

椎木講堂は、以下の基本方針の下で運営されている（椎木講堂ホームページ http://shiiki-hall.kyushu-u.ac.jp/aboutus/）

- 九大百年を象徴し、学生や教職員の誇りとなり、市民を惹きつけ、新しい学術芸術文化の拠点となり、象徴性、先進性、持続性を有する施設とする。
- 大学の主要行事（入学式、卒業式等）など大学講堂としての機能に加え、地域社会・国際社会・学界等の要請にも対応し、学内外の多目的な利用に対応しやすい施設とする。
- 日常的に使用することにより、管理・運営を行い、持続性を有する施設とする。

講堂は全体が直径 100mの円形で、メインのコンサートホールと管理棟からなっている。コンサートホールは、前後 2 つの部分に分かれており、後方は可動式の壁で大中小 5 つの講義室に区切られ、壁を取り払うと最大で約 3000 人収容できる。2014 年 3 月 25 日の 2013 年度学位記授与式（卒業式）

図 15-8 椎木講堂で行われた 2013 年度学位記授与式

から使用され、以降の入学式・卒業式はここで挙行されている。学生数の増加により創立五十周年記念講堂に収容しきれなくなったため、入学式は 1997 年度から、卒業式は 2007 年度から学外で行われていたが、椎木講堂の完成により再び学内で行うことができるようになった。また、2014 年 4 月 26 日には柿落(こけら)とし公演として九州交響楽団による演奏会が開かれ、各種学会や大規模イベント等学外の利用にも供されている。なお管理棟には、本部事務局各部課・室が同年 4 月 1 日に箱崎キャンパスから移転した。

九州大学基金・奨学金の創設

2011（平成 23）年に九州大学基金が創設され、2012 年度から支援事業が開始された。詳細については第 2 節で述べる。

記念事業として 2 つの奨学金が創設された。利章(りあき)奨学金は、経済学部卒業生吉田利一郎の生前の意志により寄付された奨学資金による奨学金で、2 年次以上の学部学生各年次 3 名程度に毎月 10 万円を支給するものである。のちに九州大学基金に組み入れられた。もう 1 つの三井物産奨学資金は、2・3 年次の学部学生 12 名に年額 50 万円を支給するものであった。

センター・寄附講座の設置

記念事業寄付金から 2 つのセンターが設置された。その 1 つは(公財)稲盛

表 15-2 百周年記念事業による寄附講座

講座名	設置部局	寄付者	設置期間
アジア財務戦略講座（連続講義）	経済学研究院	(株)福岡銀行	2008年6月1日～2011年3月31日
大学院共通教育　研究・技術経営論講座	知的財産本部	(株)福岡銀行	2008年7月1日～2011年3月31日
若手企業人・学生のための国際経済・経営講座（共同講義）	経済学研究院	(株)西日本シティ銀行	2010年5月13日～2013年3月31日
エア・リキード水素構造材料・破壊学講座	工学研究院	エア・リキード SA、日本エア・リキード(株)	2010年10月1日～2013年9月30日
極限環境微生物ゲノム機能開発学講座	農学研究院	(財)発酵研究所	2010年10月1日～2015年9月30日
日本ガス協会水素製造システム講座	工学研究院	(社)日本ガス協会	2011年4月1日～2014年3月31日

出典：資料編Ⅲ－950、pp.1506-1507

財団と京セラ(株)からの寄付金による稲盛フロンティア研究センター（2008 年 4 月 1 日設置）である（詳細については第 7 巻部局史編Ⅳ第 58 編を参照）。もう 1 つは、九州大学卒業生で、電子機器の受託生産サービス企業シネックス（Synnex）社の創業者であるロバート・ファン（Robert Huang）からの寄付金によるロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（2010 年 12 月 1 日設置）である（詳細は第 7 巻部局史編Ⅳ第 48 編を参照）。

寄附講座は 6 講座が記念事業により設置された。表 15-2 はその一覧である。

出版物・楽曲等

記念事業による出版物としては、学内の貴重な学術資料等を紹介した『九州大学百年の宝物』（2011 年 2 月）、九州大学の創立前史からの約 130 年を写真で紹介する『九州大学百年史写真集』（2011 年 5 月）が刊行された。また、『写真集』掲載写真を中心として「九州大学百周年記念写真パネル」161 枚が制作されている。

創立百周年の記念楽曲として、丸本大悟「組曲「杜の鼓動」第 2 番」（2011 年 4 月）と中村滋延「九大百年祝典序曲」（2011 年 5 月）が作曲され、それぞれ九州大学マンドリンクラブと九大フィルハーモニー・オーケストラによって初演された。

「九州大学博多駅オフィス」の開設

2011（平成 23）年 3 月 3 日 JR 博多シティ（博多駅ビル）10 階に「九州大学博多駅オフィス」を開設した。このオフィスは、都心部における九州大学の情報発信・収集の拠点であるとともに、産学連携活動や同窓生の交流活動の場として設置されたものである。オフィス内にはラウンジ・図書室・自習室・会議室が設けられている。

3 月に九州新幹線（鹿児島ルート）が全通したことから熊本・長崎等からの通学も可能になり、4 月からはその交通アクセスの良さを活かして大学院経済学府産業マネジメント専攻（ビジネススクール）の授業も行われている。これは記念事業の 1 つ「生涯学習時代に対応する社会人等の受入れ推進事業」を実現するもの実現であった。

(3)『九州大学百年史』の編纂

編集体制の構築

記念事業の 1 つとして編纂されることとなった『九州大学百年史』（以下『百年史』）については、有川節夫理事・副学長を委員長とする百年史編集ワーキンググループ（以下「百年史 WG」）が設置され、2006 年 10 月 4 日にその第 1 回が開かれた。ここでは基本方針として、編集期間はひとまず 8 年間で行うこと、通史 3 巻・部局史 4 巻・資料編 3 巻・写真集 1 巻の全 11 巻構成とし、WEB 上で編集作業を行い、公開も WEB 上ですることなどが決定された（巻数は後に資料編 1 巻を追加して全 12 巻となった）。

翌 2007 年 6 月 4 日の第 2 回百年史 WG では、百年史編集委員会（委員長新谷恭明大学院人間環境学研究院（のち基幹教育院）教授、2016 年度から熊野直樹大学院法学研究院教授）を設置すること、百年史編集室を大学文書館に設置し、その専任教員（准教授・助教各 1）を全学運用定員で配置するよう要望することとした。

百年史編集委員会は、各研究院と病院から 2 名ずつ、各研究所研究所・（研究院をもたない）学府・附属図書館・情報基盤研究開発センター・健康科学センター・センター群協議会・事務局総務部から 1 名ずつの委員で構成され、2007 年 9 月 3 日に第 1 回が開催された。この場では百年史の構成、百年史編集小委員会の設置、編集室の確保について協議された。以後百年史編集の具体的な進め方等については編集委員会で決定されることとなり、百年史 WG は 2008 年 10 月に編集委員会の親委員会として史料編纂委員会（委員長丸野俊一理事・副学長）に改組された。

2009 年 1 月 1 日付で大学文書館内に百年史編集室（以下「編集室」）が設置された。教員 2 名は 4 月 1 日より配置され、編集作業が開始された。

『九州大学百年史』の編集と公開

編集室はまず、評議会・教授会等の議事録撮影や新聞・大学刊行物の記事目録作成等の資料収集作業のほか、WEB 上で編集作業を行うためのシステム構築を行った。

通史編については、『九州大学七十五年史』では創立 50 周年までは『九州大学五十年史』の要約であったが、『百年史』では、創立 75 周年までの時期に関しても、近年新たな資料が出てきていることなどから、創立前史から新稿として執筆することとした。

部局史編については基本的に部局の責任とされ、各部局で部局史編集組織を設置するなどして編集作業が進められた。部局史編に関して編集室は、主に各部局史編集作業の支援を行った。

資料編については当初 3 巻構成とし、うち 2 巻は法令や文書資料、新聞記事等を掲載し、1 巻は一覧・統計・年表等を掲載することとし、『七十五年史』史料編掲載資料は一部のみ掲載することとしていた。しかし、『七十五年史』史料編掲載資料も『百年史』ですべて掲載すべきとの意見が出て、3 巻ではそれが不可能であるため、1 巻増やして 4 巻とすることとなった。

図 15-9 『九州大学百年史』カバー

こうして編集作業は進められ、2011 年にまず『九州大学百年史写真集』を印刷物として刊行し、記念品として記念事業への寄付者に配布されたほか、九州大学生活協同組合を通じて販売も行った。写真集以外の各巻は、附属図書館の協力のもと、九州大学学術情報リポジトリで公開されることとなり、まず第 8 巻資料編 I を 2014 年に公開開始し、以後順次公開されている（https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/publications_kyushu/qu100th）。

第 2 節　九州大学基金の創設

（1）記念事業募金

「九州大学百周年記念事業推進会」の設立

創立百周年記念事業の資金は寄付金で賄うこととされ、2006（平成 18）年 7 月 21 日の百周年記念事業委員会で目標総額を 100 億円とすることが決

定された。ついで同年 11 月 17 日の記念事業委員会で、12 月 1 日より学内教職員を対象とする「学内募金」を開始することが承認され、募金活動が始まった。

これよりさき、同年 7 月 18 日の百周年記念事業専門委員会で、学外から記念事業を支援する組織として「九州大学百周年記念事業を支える会」(仮称)の会則案が参考資料として提示された。8 月から 12 月にかけて九州電力(株)・九州経済連合会と九州大学との間で、記念事業のための募金活動を支援する学外組織構想に関し、事務レベルでの検討・打合せが実施された。11 月 7 日の百周年記念事業専門委員会で「九州大学百周年記念事業推進会」(以下「推進会」) 構想が、役員構成案も含めて提示され、推進会が設立されることとなった。

推進会は翌 2007 年 2 月 28 日に発起人会と設立総会を開催した。推進会は記念事業への募金活動に対する支援をその活動の中心とするものであった。会長には鎌田迪貞(みちさだ)九州経済連合会会長・九州電力(株)会長が選出され、会長代行には梶山千里九州大学総長が指名された。役員はこのほか副会長・理事・監事が置かれ、くわえて特別顧問と顧問も置かれた。役員等は、最終的に副会長 59 名、理事 648 名、監事 2 名、特別顧問 3 名、顧問 85 名が地元経済界を中心として、政界・学界からも選ばれたほか、九州大学の各部局長等の教員も理事等に就任した。組織としては事業の企画立案・調査検討・連絡調整を担う幹事会が置かれた。また関東地区と関西地区の募金活動を進めるため東京部会と関西部会が置かれ、両部会にも幹事会が設けられた（資料編Ⅲ－950、p.1501。『九州大学創立百周年記念事業報告書』、九州大学総務部百周年記念事業推進課、2011 年、pp.42-43)。

こうして推進会が設立され、特に法人（企業）への募金活動を推進会が担った。同年 5 月 9 日の幹事会で企業への募金目標額が決定され、8 月 1 日の幹事会で九州地区の企業等への募金活動の実施について了承された。また、7 月 27 日に東京部会の設立総会が開かれ、前田勝之助東レ(株)会長を部会長

に選出した。ついで 11 月 6 日に関西部会の設立総会が開かれて、稲盛和夫京セラ(株)名誉会長を部会長に選出した。これにより関東・関西地区でも募金活動が開始された。

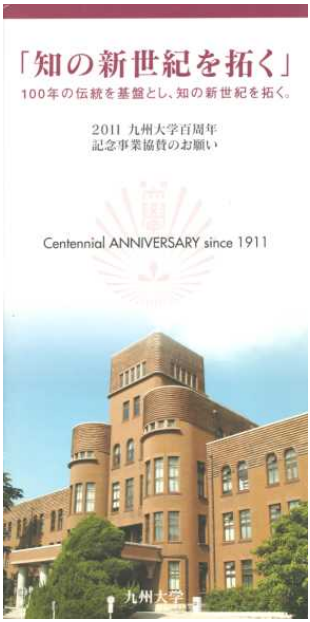

図 15-10　百周年記念事業への寄付を呼びかけるパンフレット表紙

募金活動

記念事業の募金活動は 2011（平成 23）年 3 月末日までとされ、教職員、卒業生等の個人、法人（企業）向けにそれぞれ行われた。寄付者に対しては、寄付額に応じて銘板の設置、建物等に寄付者の氏名を冠するなどの顕彰が行われた（前掲『九州大学創立百周年記念事業報告書』、p.47）。

教職員に対する募金活動は、2006 年 12 月 1 日、学内の教職員から始められた。ついで翌 2007 年 4 月 5 日には、名誉教授等の退職者に募金案内を送付した。こののち新規採用者や退職者、役職者にはたびたび募金案内を配布している。さらに百周年記念事業担当理事が各部局を訪問して募金への協力要請を行った。

卒業生等に対しては、2007 年 12 月 1 日に卒業生に対する募金活動が開始された。同年 3 月 25 日に行われた卒業式ではその年の卒業生に募金案内を配布し、これは以後毎年行われた。また、4 月 8 日入学式では新入生の保護者に対して募金案内を配布し、これも以後毎年実施した。5 月 27 日には卒業生に募金案内を送付し、以後数回にわたって実施した。さらに 2009 年 7 月以降、各学部等の同窓会での募金呼びかけも行った。

法人については、2007 年 9 月 1 日から九州地区の法人募金を開始し、10 月 1 日から関東・関西地区の法人募金も開始した。12 月 14 日には福岡・北

表 15-3　百周年記念事業収支決算（2006～11 年度）（単位円）

収　入	金額
寄付金	8,567,109,558
企業・団体等	2,759,655,708
卒業生	368,859,860
一般有志	27,355,500
篤志家	5,150,000,000
大学関係者	261,238,490
プロジェクト事業等	479,000,000
寄付建物・物品等	938,920,015
利息等	30,124,228
合計	10,015,153,801

支　出	金額	備考
記念事業費	9,874,999,961	
九州大学基金	3,434,264,932	
一般資金	2,576,474,671	
使途特定寄付事業費	701,790,261	寄付者使途特定
奨学金	156,000,000	寄付者使途特定
大学講堂建設事業費	5,000,000,000	寄付者使途特定
産学連携プロジェクト事業費	479,000,000	共同研究・寄附講座等
寄付建物・物品	938,920,015	稲盛財団記念館等
百年史編纂事業費	22,815,014	百年史写真集発行経費含む
募金事業費	140,153,840	
合計	10,015,153,801	

出典：『九州大学創立百周年記念事業報告書（追録）』（九州大学総務部基金事業課、2013 年）、p.30

九州地区の商工会議所役員企業に募金案内を送付した。また卒業生が代表・役員を務める九州地区の法人への募金案内の送付も行い、2010 年にはこれを関東・関西地区にも拡大した。2010 年 4 月 8 日からは九大関係の地元企業への訪問も開始した（以上資料編Ⅲ－950、pp.1530-1532）。

しかしながら、募金活動は困難を極めた。その最大の原因は、リーマン・ショックである。これは 2008 年 9 月 15 日、米国の投資銀行であるリーマン・

ブラザーズが破綻、日本でも株価が 1 万 2000 円台から一時は 6000 円台まで下落し、さらに急激なドル安が進行してアメリカ向けの輸出企業を中心にダメージが広がり、日本経済全体の大幅な景気後退へとつながったものであった。これにより特に法人には寄付をする余力がなくなってしまったのである。リーマン・ショック以前はバブル崩壊後の景気が回復軌道にあり、この時期に募金を行った大学の中には順調に寄付を集めることができたところもあっただけに、九大にとっては非常にタイミングの悪いことであった。

最終的に、百周年記念事業の収支決算は表 15-3 のようになった。募金活動終了後に椎木講堂の寄付があり、これにより目標額であった 100 億円を達成したものの、これらを除くと寄付金額そのものは 50 億円たらずで、目標の半分にも届かない状況であった。

募金活動は 2011 年 3 月末日をもって予定どおり終了し、推進会も同年 9 月をもって解散した。記念事業費のうち 34 億円が九州大学基金に組み入れられることとなった。

（2）九州大学基金の創設

九州大学基金の創設

百周年記念事業計画では、事業概要の第 1 に「教育研究環境の整備充実を図るための九州大学基金（仮称）の創設」が掲げられており、当初から九州大学基金の創設が予定されていた（資料編Ⅲ－950、p.1499）。九州大学基金の創設は 2010 年 4 月 20 日の部局長会議に諮られ、正式に了承された（資料編Ⅲ－951、pp.1533-1534）。

2010 年 6 月 10 日に九州大学基金規程が施行され、九州大学基金は正式に創設された。九州大学基金は、九州大学が「世界そして人類が希求する知を先導すべく、グローバル化する世界の学術リーダーとして、「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育を

一層推進し、また、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、本学の教育研究、診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ること」が目的とされた。基金は以下の事業に供すると定められた。

・教育研究の充実とそのための環境整備に対する支援
・産学連携その他社会連携活動等に対する支援
・学生に対する奨学金等の支給
・教職員・学生等の国際・文化・体育活動や能力開発等に対する支援
・卒業生等との連携活動等に対する支援
・国際交流や留学生に対する支援
・キャンパス内の環境整備や美化に対する支援
・その他九大基金の目的達成に必要な事業

（以上、資料編Ⅲ－952、pp.1534-1536）

こうして創設された九州大学基金であったが、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災のために創立百周年記念式典等の記念行事が 1 年延期となり、そのため受入開始が遅れることとなった。同年 10 月 1 日にようやく基金委員会規則等の関係規則が制定されて、基金事業推進室が設置された。同室の室長は基金担当理事で、九州大学基金事業の実施に係る企画・立案を行うとされた（資料編Ⅲ－654、pp.1537-1538）。また同日、九州大学基金による支援助成事業･基金強化事業を推進する組織として基金本部が設置された。基金本部は基金事業推進室と総務部百周年記念事業推進課基金事務室で構成され、本部長は総長が務めた（資料編Ⅲ－653、pp.1536-1537）。

九州大学基金の事業

九州大学基金による支援助成事業は 2012 年度より開始され、初年度は以下の事業が実施された（以下、特記なき限り前掲『九州大学創立百周年記念事業報告書（追録）』、pp.9-11 による）。

まず学生支援助成としては、九州帝国大学初代総長山川健次郎の名を冠した「山川賞」を創設した。これは、九州大学教育憲章が指向する人間性・社会性・国際性・専門性について優れた志をもち、学業に優れ、将来社会のさまざまな分野で指導的な役割を果たし広く世界で活躍することをめざす学部学生に奨励金を支給するもので、初年度は 6 名が受賞した。このほか 2012 年度実施の学生支援助成事業は以下のとおりである。

図 15-11 山川賞記念メダル盾

・博士課程学生の研究奨励金

・学生の独創的教育・研究・社会貢献活動支援

・海外留学渡航支援

・学生の国際会議等参加支援

・課外活動支援

・利章(りあき)奨学金

つぎに、教職員支援助成として以下の事業が行われた。

・若手教職員の長期海外派遣支援

・若手事務・技術職員の能力開発

若手事務・技術職員の能力開発・資格取得のための各種研究会等への参加経費を給付

・教職員の海外派遣等支援

・教材・ソフトウェア等開発、コンテンツ整備等支援

・社会との連携活動支援

卒業生等への支援に関しては、卒業生・同窓会等との連携活動支援として、卒業生との密接なネットワークの形成や同窓会活動の活性化のための経費等が給付された。

最後に、プロジェクトへの支援として、「新亭々舎プロジェクト」「医学歴史館プロジェクト」「法科大学院六本松プロジェクト」に対して支援が行われた。「新亭々舎プロジェクト」は、六本松キャンパスにあった学生集会所「亭々舎」の雰囲気や役割を継承する新たなコミュニケーションスペースを、卒業生の寄付により伊都キャンパスに設置しようというもので、九州大学生活協同組合からの寄付も得て、2015 年に完成・開所した。「医学歴史館プロジェクト」は、医学部旧解剖学教室を復元し、医学・医療の歴史において九州大学医学部が果たしてきた役割や築いてきた功績を振り返る施設として計画されたもので、医学部同窓会の寄付により 2015 年に開館した。「法科大学院六本松プロジェクト」は、六本松の九大跡地へ裁判所・検察庁・弁護士会等の誘致が予定されており、同地へ九州大学大学院法務学府（法科大学院）を移転させるプロジェクトで、募金期間は 2017 年 5 月までが予定されている（『平成 27 年度九州大学基金活動報告書』、九州大学総務部同窓生・基金課、pp.19-21）

これらの事業の中にはのちに終了したものもあり、その後新たに加えられたものもある。現在の九州大学基金事業の状況は九州大学基金ホームページ（http://kikin.kyushu-u.ac.jp/）で公表されている。

第 3 節　創立百周年記念式典

（1）百周年記念イベントの実施

九大百年開学式・山川健次郎初代総長胸像設置式

2011（平成 23）年 5 月 13 日、伊都キャンパス稲盛財団記念館で「九大百年開学式」が開催された。本来は創立百周年記念式典が開かれるはずであったが、3 月 11 日に発生した東日本大震災による深刻な社会状況を考慮して 1 年延期され、開学式はそれに代わるものとして開催されたのである。

式では有川節夫総長が挨拶し、まず東日本大震災の犠牲者に哀悼の意を表し、創立百周年記念式典等の行事を延期したこと、開学式等どうしても同年中に済ませておくべきいくつかのイベントについては実施することを説明した。つづいて、東日本大震災は多くの課題を突きつけたのであり、大きな教訓にしなければならない、と述べた。また大学として地球規模の課題に取り組むことの必要性や、そうした課題を解決できるグローバルな人材の養成に取り組まねばならないことを示した。そしてそのために「自立的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究教育拠点となること」を基本理念とし、「卓越した基礎研究とそれに支えられた先端的研究を推進する大学」など 9 つの目標を実現すべきことを訴えた。

つづいて、C&C（チャレンジ・アンド・クリエイション）プロジェクトのうち特に優秀なものに対する総長賞の表彰があり、受賞者が研究成果の発表を行った。また、創立百周年を記念して大学院芸術工学研究院中村滋延教授に委嘱されていた「九大百年祝典序曲」が贈呈された。この曲はブラームスの「大学祝典序曲」に「刺激を受けて、「黒田節」や「どんたく囃子」、また九州大学の学生歌や応援歌、「伊都キャンパスイメージソング」などの旋律を」ちりばめたものであり、2012 年 5 月 12 日の百周年記念式典で初演された（作

図 15-12　「九大百年開学式」で挨拶する有川節夫総長（2011 年 5 月 13 日）

図 15-13　山川健次郎初代総長胸像

曲者による作品概要と楽譜は http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/handle/2324/25719/p053.pdf を参照）。

開学式の終了後、山川健次郎初代総長胸像設置式が挙行された。これは、山川健次郎顕彰会が山川の生誕 150 周年を記念して胸像を制作し、出身地である福島県会津若松市に寄贈していたものを九州大学が譲り受け、伊都キャンパスのセンター・ゾーンに設置されたものである。台座には山川が九大着任時に学生への訓示の中で述べた「修養が広くなければ完全な士と云ふ可からず」ということばが刻まれた。山川についてはその訓示や業績などを紹介する小冊子も作成・配布された。

創立百周年記念講演会・特別講座等

2011（平成 23）年 5 月に予定されていた百周年記念式典に先立って、様々な講演会や講座等が開催された。

2011 年 3 月 1 日、第 1 回の創立百周年記念講演会が開催され、中野三敏名誉教授が「和本リテラシーの回復を願って」と題して、中央図書

館で講演した。記念講演会はこののち 9 月 22 日まで計 11 回開催されている。講師は名誉教授 2 名のほかはいずれも学外の学界・産業界等から招かれた。

100 周年を記念して、2 つの特別講座が開かれている。1 つは、2010 年 10 月から 2011 年 1 月にかけて、「九州大学の歴史と芸術」全 5 回が開催された。もう 1 つは 2011 年 4 月から 9 月まで、特別講座「九大 100 年　お宝大集合～仙厓さんもおカイコさんも全学から発掘」全 12 回である。いずれも会場は箱崎キャンパス 21 世紀交流プラザ I であった。

このほか 2011 年 3 月から 2012 年 5 月にかけて、各部局等が多種多様な講演会・フォーラム・公開講座・セミナー等を多数開催している。

展示・研究施設公開

2011（平成 23）年 5 月から、九州大学の所蔵する貴重資料（学術標本等）や歴史的な写真パネル等の展示が、学内外で開催された。特に 11 月 15 日から 12 月 18 日まで九州国立博物館で開催された「九州大学百年の宝物」展と「写真で見る「九大百年」」展は多くの来場者を集めた。「九州大学百年の宝物」展は、重要文化財の『大和物語』をはじめとして、附属図書館や総合研究博物館、各部局等が所蔵する貴重な文物を一堂に集めたもので、その内容は展示開始に先立って同名の書籍として刊行された。

創立 100 周年の記念行事としては、研究施設の公開も行われた。まず 2011 年 5 月 10 日、農学部附属演習林福岡演習林資源植物園の公開が行われた。6 月 4 日には筑紫地区のキャンパス開放が開催され、小学生から高校生までを対象とした化学実験やロケット打ち上げなどが行われた。8 月 7 日には伊都キャンパスの低温センターと超伝導システム科学研究センターが公開された。

「九州大学まなびたい」と「QU ウォーク」

式典や講演会、研究資料の公開等のほかにも、各種のイベントが実施され

図 15-14 福岡市役所前をパレードする「九州大学まなびたい」（2009 年 5 月 3 日）

たが、100 周年を迎えたのちも継続して実施されているものに、「九州大学まなびたい」と、「QU ウォーク」がある。

まず、2009（平成 21）年 5 月 3 日、博多どんたく港まつりに「九州大学まなびたい」として学生・卒業生・留学生・教職員等 200 名のパレードが初めて出場した。「まなびたい」は芸術工学研究院教員がデザインした、スクールカラーを基調とした揃いの法被や T シャツを身にまとって行進した。また、この年 3 月末に閉寮となった田島寮で長年受け継がれてきた伝統行事の「樽神輿」も隊列に加わった。「まなびたい」は以後毎年パレードに出場している。

ついで 11 月 3 日、「第 1 回 QU ウォーク～西公園から伊都キャンパスまで歩こう～」が開催された。これはウォーキングを通して、運動や健康の重要性を実感することや、地域住民と大学関係者との交流を図ることを目的に行われた、百周年記念のプレイベントであった。幅広い年代の参加者 232 人が、約 20km の道のりを 4 時間程度で歩いた。第 2 回は箱崎キャンパスから伊都キャンパスまで、以後第 4 回までは出発点を変えながら、第 5 回からは長垂海浜公園を出発点として毎年 11 月に開催されている。

（2）創立百周年記念式典

創立百周年記念式典

2012（平成 24）年 5 月 12 日、東日本大震災により 1 年間延期されていた創立百周年記念式典が、創立五十周年記念講堂で挙行された。式典に先立ち、祝賀演奏として、九大フィルハーモニー・オーケストラ（荒谷俊治指揮）により「九大百年祝典序曲」の初演が行われた。

図 15-15 創立百周年記念式典（2012 年 5 月 12 日）
式辞を述べる有川節夫総長。

式典では、最初に有川節夫総長が式辞を述べた。まず、九州大学の歴史について、その前史から始めて京都帝国大学福岡医科大学の創設、九州帝国大学の創立、各学部の創設と総合大学としての発展、学府・研究院制度の創設をはじめとする改革、九州芸術工科大学との統合など、その 100 年のあゆみを紹介した。その中では特に、総合大学としての発展を支援した地域社会に対する謝辞が述べられた。つづいて現在の九州大学における改革の状況が説明され、創立百周年記念事業に関して協力への御礼のことばを申し述べた。さらに九州大学が取り組むべき諸課題についての考えを述べ、「九大百年開学式」の際にも示された、今後の九州大学の基本理念とめざすべき大学像を提示した。そして最後に、「「九大百年、躍進百大」。九州大学がどの分野においても世界のトップ百大学に躍進すべく、これからの百年の発展を築いて参ります」とのことばで締めくくった（資料編Ⅲ－956、pp.1540-1544）。

つづいて来賓の平野博文文部科学大臣、濱田純一東京大学総長、小川洋福岡県知事、松尾新吾九州経済連合会会長、卒業生代表として岡部正彦東京同窓会会長からの祝辞があった。最後に百周年記念事業について、落合英俊百周年事業担当理事より、支援者に感謝するとともに、記念事業の内容と、寄付を原資として「九州大学基金」を創設したことについて報告が行われた。

ひきつづき、記念講演会が開催された。新海征治高等研究院特別主幹教授が「偶然（Serendipity）と人物交流が織りなす研究人生」、若田光一宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士グループ長（1987 年工学部卒業）「夢と宇宙　母校への期待」の演題で講演した。

記念式典・講演会の終了後、ホテルオークラ福岡で創立百周年記念祝賀会が開かれた。オープニングでは「九州大学の昔と今」をテーマとした映像を上映。松本紘京都大学総長、芦塚日出美福岡同窓会会長等からの祝辞ののち、田中健藏第 17 代総長の発声で乾杯して祝宴が始まり、最後は「祝いめでた」と「博多手一本」で締めくくった。

九大 100 年まつり

創立百周年記念式典等が挙行された翌日の 2012（平成 24）年 5 月 13 日、伊都キャンパスで「九大 100 年まつり」が開催された。メインステージでは、会津若松市の現・前市長、山川の子孫らが招かれ、歴代総長等九大関係者が参列して山川健次郎九州大学初代総長胸像披露式が挙行され、つづいて、九大教授が世界最先端の研究をわかりやすくレクチャーする「おもしろサイエンス公開講義」が行われた。当日は「第 4 回 QU ウォーク」も行われ、天神中央公園を出発し伊都キャンパスまでの 23km を歩き、そのゴールの様子がメインステージで実況された。これらのイベントの前後には学生サークル等による演奏が行われ、最後は 1974（昭和 49）年農学部卒業の鮎川誠率いる「シーナ&ロケッツ」のスペシャルライブで締めくくった。

メインステージ以外でも多くのイベントが開催された。水素と空気中の酸

素を反応させて発電しモーターで走り、「究極のクリーンエネルギー車」と言われる「燃料電池自動車」の試乗会が、水素ステーションを出発して伊都キャンパス内の約 2 キロの区間で行われた。また、全研究院と研究所・附属図書館・病院・センター等が参加する研究公開は、49 の企画が各教室で実施された。

図 15-16 九大 100 年まつりメインステージ（2012 年 5 月 13 日）
インタビューを受ける QU ウォークの完歩者たち。

「九大 100 年まつり」は、2007 年から開催されている「伊都祭」と合わせて開催された。当日は晴天に恵まれ、多くの家族連れも訪れて、来場者数は約 1 万 9000 人に上った。

創立百周年記念コンサート

2012（平成 24）年 5 月 26 日、アクロス福岡シンフォニーホールで「創立百周年記念コンサート」開催された。九州大学はで、100 年以上の歴史をもつ「九大フィルハーモニー-オーケストラ」に象徴されるように学生の音楽活動が非常に盛んであり、このコンサートでは歴史と実績のある 4 つの学生団体が演奏を披露した。

「九州大学マンドリンクラブ」（1920 年創立）は九大創立百周年記念の委嘱作品である丸本大悟作曲「杜の鼓動」第 2 番を初演し、「九大混声合唱団」（1963 年創立）は学生歌「松原に」ほかを、「九州大学男声合唱団コールア

カデミー」（1953 年創立）は学生歌「春の讃歌」ほかを、「九大フィルハーモニー･オーケストラ」（1909 年創立）が一般公開の場としては初演となる中村滋延作曲「九大百年祝典序曲」ほかを演奏した。

この創立百周年記念コンサートをもって、1 年以上にわたってさまざまに展開された創立百周年記念行事は、すべて終了した。